報道関係者各位

2026年11月20日

JAPAN PROJECT株式会社

代表取締役　小野晶大

奄美に自生するクロヨナでSAF事業に参入！

与路島で国内最大規模の研究圃場の開設に着手！苗木520本を配置！

～奄美から日本の空を守る！耕作放棄地の有効活用と雇用創出を目指して～

― 農業生産法人NEXIAファーム株式会社の設立と、

与路島観光商工協会と日本最南限生息地である与路島のニホンミツバチで養蜂にも参入 ―

与路島で宿4軒とビジターセンターカフェ「Ole Ole」を運営し、奄美大島・与路島の活性化に取り組むJAPAN PROJECT株式会社（本店：鹿児島県大島郡瀬戸内町与路、代表取締役：小野晶大、以下「当社」）は、奄美の耕作放棄地の有効活用を目指し、農業生産法人NEXIAファーム株式会社（本店：鹿児島県奄美市、代表取締役社長：元雅亮、以下「NEXIAファーム」）を設立し、与路島でSAF（持続可能な航空燃料）の原料となるクロヨナ（ポンガミア）の栽培に向けた圃場整備に着手しました。

与路島を起点に、住用・笠利をはじめとする奄美大島各地、そして奄美群島全体へと展開する構想のもと、まずは奄美大島の耕作放棄地での取り組みを始めます。島での生育や種子の収量を確かめ、その結果を踏まえて、将来的には奄美群島全体で1,000ヘクタール規模への栽培拡大を目指し、年間売上約20億円、100世帯相当の雇用創出を目標とします（最大効率を達成した場合の試算）。

■ 背景

国内のSAFをめぐる情勢

政府は、2030年時点で本邦航空会社の燃料使用量の10%をSAFに置き換える目標を掲げています。国土交通省は、同年の国内需要を、海外航空会社の国内給油分を含めて約172万kLと試算しています。経済産業省資源エネルギー庁は、クロヨナなど非可食原料の開拓を含む、SAF原料の多角化が必要としています。

クロヨナはマメ科の樹木であり、種子から採れる油は食用に適さない一方、国産SAF原料の有力候補の一つと目されています。国内では、クロヨナとテリハボク由来の精製油を混合したもので、SAFの製造と規格適合が確認されたという報告もございます。

今回の当社の取り組みは、与路島の条件下でどれだけ種子を採れ、原料を安定して供給できるか、さらに、品種改良や栽培手法、最適な土壌条件などを確かめることが、今回重要な役割を担うと考えています。



クロヨナの育苗場



クロヨナの育苗場（近景）



クロヨナの葉



クロヨナの花

与路島・奄美の耕作放棄地

今回の舞台となる与路島は、鹿児島県瀬戸内町の最南端に位置する二次離島で、面積約9.35平方キロメートル、人口41人の島です。奄美群島国立公園も存在する貴重な環境に囲まれ、この10年で人口が半分になり、使われなくなった畑が島のあちらこちらに残っています。奄美大島全体にも、多くの耕作放棄地が存

在しており、鹿児島県の調査によると、奄美群島12市町村には約1,501ヘクタールの荒廃農地があるとされています。※ 出典：鹿児島県「荒廃農地の発生状況（令和6年度）」

これらの畑をもう一度「島の未来を育てる畑」にしたい、そんな想いで本事業をスタートします。

この取り組みでは、まず島にある農地を再び使い、植え付けだけでなく、その後も畑を維持できるかを確かめます。過去に畑として利用されてきた場所でも、土の状態や水はけ、作業のしやすさは一様ではありません。手入れにかかる作業も含めて確認し、農地の維持と原料の生産を両立できる方法を探ります。

■ 代表・小野晶大について



代表取締役 小野 晶大

与路島にて

小野 晶大（おの あつひろ） JAPAN PROJECT株式会社 代表取締役

東京大学農学部森林生物科学専修卒業。在学中は動物生態学を専攻し、キセキレイを対象に野生生物と環境の関係性を研究してきました。卒業後に就職した国土交通省・環境省では、離島振興、震災復興、国営公園整備、野生生物保全、まちづくりGXなどの施策に携わり、現在は、行政で培った経験と事業経営を結びつけ、自然・地域・公益を支える事業づくりに取り組んでいます。

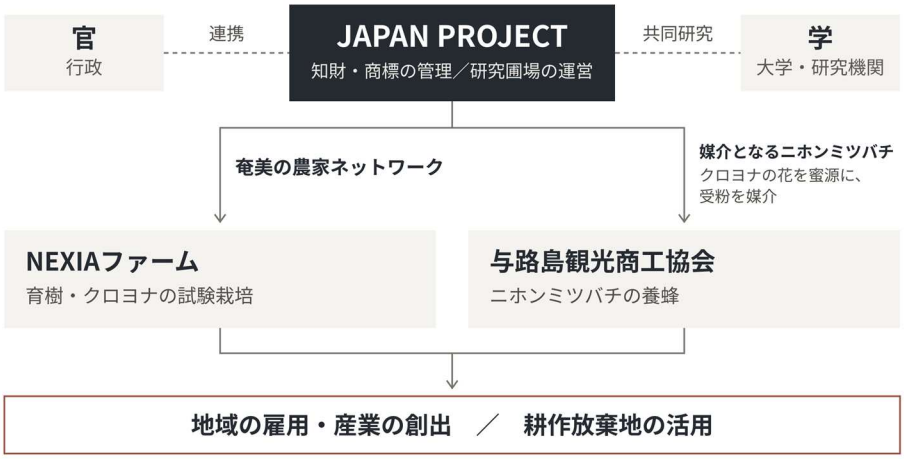
一般社団法人クールジャパン協議会 代表理事、一般社団法人ナショナルパークスジャパン 専務理事・事務局長、与路島観光商工協会 統括事務局長を兼務。

■ この取り組みで大切にすること

- 耕作放棄地の活用：使われなくなった畑を、もう一度「島の未来を育てる畑」に戻します。
- 奄美での雇用創出：奄美大島での農家ネットワークはNEXIAファームが担い、栽培を地元の農家の方々と進めることで、地域の雇用拡大につなげます。
- 島の新産業の創出：与路島観光商工協会とは、クロヨナの花を活かしたニホンミツバチの養蜂に取り組みます。

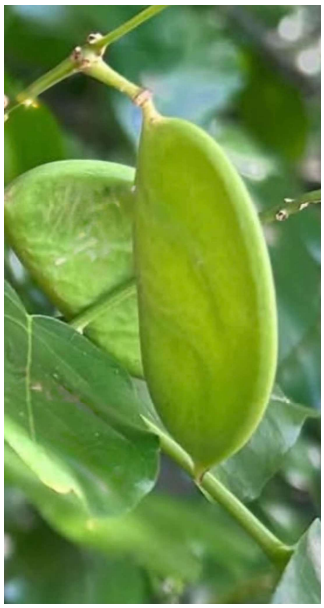
■ 連携・事業推進スキーム

当社は行政と連携し、大学・研究機関と共同研究を行いながら、知財・商標の管理と研究圃場の運営を担います。NEXIAファームは奄美の農家ネットワークを通じて栽培を進め、与路島観光商工協会は、クロヨナの花の受粉媒介にも貢献するニホンミツバチの養蜂に取り組み、雇用・新産業創出、耕作放棄地の活用につなげてまいります。





与路島の育苗場にて（左から）
与路島観光商工協会会長 榮勝永、NEXIAファーム取締役 佐藤春彰（与路島在住）、同 代表取締役社長 元雅亮（奄美市在住）



クロヨナの実（さや）。
種子から採れる油がSAFの原料として期待される

■ NEXIAファームが与路島の耕作放棄地で行う栽培事業

① Ole Oleカフェの食材用の野菜

与路島ビジターセンター&カフェ「Ole Ole」で使う野菜を栽培し、島で採れた野菜を島のカフェで味わう「Farm to Table」を目指します。

② サガリバナの苗木

夏の夜に咲いて朝には散る一夜花で与路島を象徴する花であるサガリバナの苗木を育て、島の景観づくりに生かしていきます。

③ SAFの原料樹木クロヨナ

クロヨナの種子から取れる油がSAFの原料として期待されているマメ科の樹木です。与路島や奄美大島における研究圃場の整備を開始しました。まずは、520本の苗木の試験植栽を順次行ってまいります。

■ なぜ、与路島・奄美の耕作放棄地にクロヨナなのか

台風が多く、海に囲まれ、担い手も限られる島の耕作放棄地ですが、その条件に合うのがクロヨナです。

- 台風に強い：深く根を張るため、台風の多い奄美でも育てやすい樹木です。
- 手がかからない：一度根付けば手間が少なく、担い手の限られる耕作放棄地でも管理しやすいのが特長です。
- 潮に強い：海岸防災林としても活用される樹種であり、潮風を受ける海沿いの畑でも育つため、島の土地を活かせます。
- 与路島にも自生：与路島島内でも自生していることが確認されており、島の風土に合った植物です。
- 土を豊かにする：根粒菌による窒素固定により、荒れた畑の土壌の回復・改善効果も期待できます。
- 日本最北限：クロヨナは我が国においては奄美以南に自生しており、奄美は日本最北限自生地でもあります。

クロヨナの花で、ニホンミツバチの養蜂へ

与路島は、日本固有のニホンミツバチの日本最南限生息地でもあります。当社は与路島観光商工協会とともに、クロヨナの花を蜜源として活用したニホンミツバチの養蜂に取り組み、島の新たな特産品づくりを目指します。

■ 国内最大規模のクロヨナ研究圃場を、産官学連携で開設

2027年2月以降、与路島・住用・笠利などに、クロヨナの栽培方法等を研究する圃場を順次開設します。2027年3月には苗木500本を植栽し、国内最大規模のクロヨナ研究圃場として、大学・行政・地域が連携する産官学の体制で研究を進めてまいります。

■ 与路島での試験栽培で確かめること

① 圃場の条件と苗木の生育

植栽後は、どれだけの苗木が根づいたかを記録し、樹の伸び方や生育に差が出る場所を確認します。圃場ごとの日当たりや風当たり、雨の後の水はけなども見ながら、草の管理を含め、島で継続できる管理方法を探ります。

② 結実後の種子収量

実がつくようになれば、樹ごとの種子収量と、場所や樹によるばらつきを調べます。よく育った樹の結果だけで判断せず、植えた苗木全体の生育や収穫にかかる作業も踏まえて、次の栽培地を選ぶ条件や、供給量の見通しを整理します。

③ 品種・栽培手法・土壌条件の知財化

試験栽培で得られる知見をもとに、奄美・与路島の環境に適した品種、栽培手法、土壌条件について知財化を目指します。島で積み重ねた栽培ノウハウを、奄美群島の他のエリアへの展開や、地域の農家の方々との栽培に生かしてまいります。

■ 栽培だけでなく、搾油までのワンストップ生産 ― 搾油所の新設も検討

当社では、植栽・栽培にとどまらず、搾油までを一貫して行うことで、輸送の負担を抑えられるだけでなく、島に新たな雇用を生み出すことにもつながると考えております。

試験栽培では成長・収量の確認が先行しますが、収穫後の種子の品質管理や、搾油後の油の品質管理など、安定した供給のための条件についても順次試験・研究を進めてまいります。

■ クロヨナ栽培の収穫・売上の試算

1ヘクタールに約600本の苗木を植えたと仮定し試算すると、次のとおり売上を見込むことができます。

規模	本数	年間売上
1ha	**600本**	**200万円**
10ha	6,000本	2,000万円
100ha	60,000本	2億円
1,000ha	**600,000本**	**20億円**

※ 安定的な収量が得られた場合の年間最大値による試算です。

■ 売上目標と雇用創出目標

栽培面積の拡大に合わせ、次の売上と雇用の創出を目標とします。

栽培面積	年間売上	雇用創出
10ha	2,000万円	1世帯相当
100ha	2億円	10世帯相当
1,000ha	**20億円**	**100世帯相当**

※ 安定的な収量が得られた場合の年間最大値による試算です。

■ 1,000ヘクタール規模に向けた段階的な展開

まずは与路島での試験栽培を進め、栽培・管理の方法と収量を見極めます。その結果と、候補地の利用条件、地域での管理体制や集荷・輸送の条件を踏まえて、与路島から奄美大島、そして奄美群島全体へと段階的に栽培を広げられるかを検討します。

■ 島の雇用と産業につなげる

圃場の手入れや植栽、栽培管理などを島で継続できれば、耕作されなくなった農地の維持に加え、島内の雇用や地域の産業にもつながると考えています。奄美大島での農家ネットワークはNEXIAファームが担い、地域の農家の方々とともに取り組みを広げていくことで、雇用の拡大にもつながると考えております。

与路島では与路島観光商工協会とともにニホンミツバチによる養蜂にも取り組んでまいります。

日本の空を守るこのクロヨナのプロジェクトを進めながらも、奄美・与路島の産業づくりを一体的に進めていくことが可能となります。

環境への効果を真に見極めるには、圃場管理や島外への輸送、搾油に用いるエネルギーなども考慮する必要があります。今回の試験栽培は、生産や供給の各段階で必要となる作業を把握し、将来にわたる環境負荷低減を検討するための出発点でもあります。

■ 会社概要

JAPAN PROJECT株式会社

本店	鹿児島県大島郡瀬戸内町与路340
代表取締役	小野 晶大
役員	取締役 石田 英史／薄田 ジュリア／月山 哲也／元 允謙 監査役 真泉 順一
事業内容	・与路島事業（宿4軒・ビジターセンターカフェ「Ole Ole」の運営、アクティビティ・イベント企画運営） ・全国有人離島417離島活性化メディア ・クロヨナSAF事業 ・タイニーリゾート関連事業

農業生産法人NEXIAファーム株式会社

本店	鹿児島県奄美市名瀬有屋町30番地1
設立	2026年8月13日設立
役員	代表取締役社長 元 雅亮／取締役 佐藤 春彰
事業内容	農産物の生産・販売、農地の保有・管理、耕作放棄地の再生

■ 本件に関するお問い合わせ先

JAPAN PROJECT株式会社　広報担当

E-mail：secretariat[at]japanproject.jp（[at]を@に置き換えてください）